

いこま塾ワークショップの開催状況について

1. ワークショップの目的

市民が自主的かつ主体的に取り組むまちづくりの方向性などを示す、市民アクションプラン（行動計画）の策定に向けて、平成 22 年度に実施したいこま塾の参加者を対象に、アクションのアイデアなどを話し合うワークショップを実施します。

ワークショップでは、より主体的な参加を重視し、アクションプラン策定後のまちづくりの担い手の発掘につなげます。

2. 開催スケジュール（開催済み、これから開催）

第 1 回 5 月 22 日（日）9:00～12:00

・自己紹介およびグループ分けを行いました。

第 2 回 6 月 12 日（日）9:00～12:00

・都市計画マスタープランにある「都市づくりの目標」を自分の暮らしと結びつけて連想し、生駒市で実現したいライフスタイルについて意見交換しました。

第 3 回 7 月 10 日（日）9:00～12:00

第 4 回 8 月 7 日（日）9:00～12:00

第 5 回 9 月 4 日（日）9:00～12:00

第 6 回 10 月 16 日（日）9:00～12:00

日 時：2011年5月22日 9時～12時
場 所：市役所4階 大会議室
出 席 者：41名

プログラム：

- 1 はじめに
- 2 久教授によるミニ講演
- 3 参加者による自己紹介、班分け
- 4 松村准教授による講評
- 5 おわりに



はじめに

部長からのあいさつ

生駒市の現在の暮らしやすさは、長い時間をかけて築かれてきました。次の世代に受け継いでいくには、先を見据えて長い目で考えていく必要があります。みなさんに主体的にワークショップに参加してもらって、出てきた意見をアクションプランに盛り込んでいきたいと思えます。よろしくお願ひします。



ワークショップの主旨について事務局から説明

自治基本条例に基づいて参画と協働を進めていくために、このワークショップで出た意見をまとめて、「市民のマスタープラン」をつくりたいと思ひます。

ミニ講演「まちづくりにおける一人称の視点」 近畿大学教授 久隆浩氏

相手の立場にたって考える

私が関わっている地域で、障がい者福祉の分野で活動している「み・らいず」というNPOグループがあります。非常にコンペに強く、その秘訣を聞いたところ「誰のためにやるのかを考えれば自ずと答えは見えてくる」という答えが返ってきました。彼らは、「いかに現場のニーズを把握し、その人の立場に立って考える」という事を重視しているのです。すなわち、私（私たち）であればどうするか、という一人称の視点で考えることが大切なのです。



一人ひとりが責任を持つ

ワークショップは一人ひとりの思いを確認する場ですが、そこで言いつばなしにするのではなく、自分が何かをする、互いの足らずの部分の補いあうことが大切です。例えば、「絶対につぶれないお店」はどんなお店だと思ひますか？箕面市で空き店舗を改装してできた「えんだいや」は、市民が気軽に集まる酒場が欲しいという思いがきっかけで、皆がお金を出し合っつてつくった居酒屋です。今でも、皆が利用することで、ちゃんと経営が成り立っています。皆が責任を持って、お店を支えあっているのです。

大事なものは“つなげる”ということ

5月5日に、茨木市で「茨木音楽祭」がありました。市はほとんど関わらず、市民が資金繰りから運営まで全部行っています。その中でも中心的な役割を担ったのは、ジャズバーのマスターと舞台の裏方集団「市民活動推進屋」です。マスターが持つ音楽プレイヤーとのコネクションと「市民活動推進屋」が持つ舞台技術、これらがうまくつながることで、このようなイベントが上手く動き出したのです。ま

さにつなぐ（ネットワークさせる）ことの重要性がわかる事例です。

自分たちがやりたいこと、できることを考えてみる

河内長野に、「はぐくらぶ」という、子育て支援グループがあります。幼稚園の送迎バスを見送った後に井戸端会議をしているお母さん方が、「子どものために何かできることはないか」と考え、市民活動センターに相談して活動が始まりました。生駒市にも「市民活動推進センター・ららポート」があり、皆さんの活動を応援する仕組みがあります。まずは自分たちが「やりたいこと」「できること」を考えてみましょう。それが動機づけとなります。無理のない範囲でひとつずつ始めていくことが大切です。

みなさんを応援します

私は様々な地域で、地域活動のお手伝いをしています。私も言いつばなしにならず、皆さんを応援していきたいと思っていますので、一緒にがんばっていきましょう。

自己紹介と班分け

一人1分間ずつの自己紹介を兼ねて、各人の「今後取り組みたいまちづくりのテーマ」、「自分自身ができること」、「誰かに協力してほしいこと」を発表してもらいました。

その後、同じ関心を持っている人、興味が合いそうな人が集まって班分けをしてもらったところ、概ね4つの班ができました。次回以降、テーマや人数等の調整を行いながら再度、班分けを行ってワークショップに取り組む予定です。



テーマ	人数	興味のあること
景観・環境まちづくり	14	里山、河川、みどり、景観、公園など
高齢化社会について（みんなが住み続けられる安全・安心なまちづくり）	10	豊かな老後生活、移動しやすいまち、住み続けられるまち、安全・安心など
幅広い世代のための持続可能なまちづくり	12	住み続けたいまち、子育てしやすいまち、買い物環境、ほか多数
スポーツとまちづくり	4	スポーツ・遊び、みんなの笑顔、生駒山への登山ルート、豊かな自然など

講評 大阪大学准教授 松村暢彦氏

今日発表し合った「取り組みたいまちづくりのテーマ」は、普段は意識しないことなので、なんとなくぼんやりしていると思われたかもしれません。どんなまちにしたいのか、を初めて考えたという人にとっては、今日がまちづくりの始まりです。また他の人が考えていることを知った、という意味では、みなさん全体にとっても第一歩になりました。

私もいろいろな地域に顔を出していますが、それは「みんなで形にする」ことが楽しいからです。今日は突然の班分けでしたが、これから話し合っていく中で、気の合う人が見つかっていくと思います。



ふりかえりシートから

「ふりかえりシート」の中から、ご意見をいくつかご紹介します。

- ・いろいろな意見を知ることができてよかった。
- ・難しく考えないで、できることから始めたい。
- ・『私には何ができるか考える』というのは、肩肘張らずにできると思った。
- ・グループ分けするためには、もう少しじっくり知り合う時間が必要だと思う。

事務局

生駒市都市整備部都市計画課

TEL : 0743-74-1111 (内線 564) FAX : 0743-74-9100 mail : ikotoshi@city.ikoma.lg.jp

日 時：2011年6月12日 9時～12時
場 所：市役所4階 大会議室
出 席 者：35名

プログラム：1 はじめに
2 ワークショップ
3 講評
4 おわりに

●はじめに 近畿大学教授 久隆浩氏からひとこと

昨年度のいこま塾では勉強をしましたが、このワークショップでは、次のステップとして自ら考えて一歩ずつ進んでいてもらいたいと思います。

市役所は市役所としてやるべきことをしっかりやってもらい、その一方でみなさんは市民としてできることを考えてもらいたいと思います。ハードルを上げすぎると息切れしてしまいますので、自分にできること、今日の午後からでもできることというような、身近なこととして考えてください。



●ワークショップ

開始にあたって

ワークショップの目的や進め方について、質問と応答、意見交換がありました。

- ・昨年度に市が策定した都市計画マスタープランの中の、「市民がまちづくりの何を担うか」という点を具体的にしていきたいというのが主旨です。それによって、市民の取組みをどう支援できるのか、を行政として考えていくこともできます。
- ・テーマがいくつか出ていますが、みなさんの生活の中の身近なテーマなので、互いに重なる部分も多いものです。ワークショップを進める中で、内容の近いものはくっついたり、また別の方向性が出てきたところでテーマを分けたり、と柔軟に進めていきましょう。

各グループの意見交換の概要

宿題としてそれぞれに考えてきていただいた「暮らしの将来像」を、グループで共有して整理し、今後のグループワークの方向性を話し合いました。

《チームいこまダ！》

メンバー：榎谷さん、坂口さん、筋原さん、土肥さん、福西さん、別所さん、松田さん（7人）

前半では、「市の取組みや市が把握している市民活動などはリストアップして提示して欲しい」といった意見が出されました。

宿題をもとにした意見交換では、「子どもとの関係（関わり）づくり」「安全・安心に暮らせるまち」「あいさつのあるまち」等の内容に関連する意見が出されました。

生駒が好きだ、生駒で気持ちよく暮らしたいという想いを、メンバーが共通して強くもっているということが分かり、チーム名を「チームいこまダ！」に決めました。



キーワード	内容
子ども	庭の水やり等を子どもの通学時間帯にあわせて、顔を合わせる機会をつくる。／子どもの遊び場があり、親も交流ができたりする施設。／歴史文化遺産を子どもと勉強できる工夫を など

キーワード	内容
安全・安心	車いすでの移動がやりやすいまち／子どもたちが自転車で移動する際、専用のレーンを通り、車や歩行者を気にせずに移動できるまち など
あいさつ	近所の顔が見えるまち／不審者対策 など
自然	朝日を感じたり、鳥の声、土や草木のにおいを感じる生活／生駒山などを見られる生活 など
のんびりできる場所	オープンテラスなど自然を眺められる場所／人が集まれる広い公園 など
ゴミのないまち	ゴミ出しについて、日時等のルールを皆が守る／ゴミがまったく落ちていないまち など

《生駒を愛するチーム「ほたる」》

メンバー：安部さん、出水さん、植田さん、大西さん、口村さん、栗巣さん、古林さん、末光さん、藤江さん、森田さん、梁瀬さん、山崎さん（12人）

前半では、景観・環境のテーマに関連の深い都市づくりの目標「豊かな自然が輝く環境まちづくり」に絞り、「暮らしのイメージ」として「五感で感じる」ことをイメージとして共有化しました。

次に、五感で感じられる生駒の景観・環境をつくっていくための方向として、「環境を守る」「生活と調和をとる」「環境を創る」という3つのキーワードが出されました。



また、今後のターゲットとして「子どもや若者、高齢者らの参加」、またそれらを支えていくしくみとして「産業（お金が循環する）」を考えていこう、という提案が出されました。

項目	キーワード	内容
1. 生駒の環境・景観のすばらしさ	「五感で感じる」	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然・景観を「五感」で感じられる（目に見える風景、におい、音、空気、野菜を作って食べる、など・・・） 昔の体験を感じる（歴史と自然） 意識して見てみる（市民目線で点検、障害物を見つける）
2. どうしていったらいいのか	①環境を守る	・五感で感じられる環境を守っていかなければならない
	②生活と調和をとる	・自然の中でまちがうまく共存していくためのルールを考えていく
	③環境を創る	<ul style="list-style-type: none"> 安心して歩ける散歩道のルートを発掘して、点と点をつなぎ面的に広げていく 人工的なものも上手く取り入れ、価値を上げる 自分で花を植えていくような楽しみを増やす
3. ターゲットは誰か	子ども、若い人と高齢者	<ul style="list-style-type: none"> 若い人が気軽に参加できる方法を探りたい 高齢者の方が自分で作った野菜を売るなどの場を作りたい
4. それを支えるしくみをどうするか	産業で支えるしくみ（お金）	<ul style="list-style-type: none"> 若い人が定着するために、お金がまわり、雇用を生みだし、人も増えるという好循環を作らなければならない 木材を活用した循環、地元の野菜を売っていく循環など 「ブランド化」や「持続可能」のテーマとも重なる まずはおこずかい程度でもいいので、地域の人が参加しやすいしくみが必要

《チームバリアフリー（高齢者にやさしいまちづくり）》

メンバー：荒井さん、井上さん、加納さん、塩井さん、田中さん、中澤さん、松田さん、三木さん、美浪さん、柳川さん、（10人）

都市づくりの目標を踏まえた「暮らしのイメージ」の共有化を行いました。「高齢者にやさしいまち

づくり」という観点からキーワードを絞り込み、大きく3つのキーワード（地域コミュニティ、利便性、場所づくり）が出てきました。しかし、「これでは他の都市で考えても変わらない。生駒だからこそできる高齢者の暮らしを考える必要があるのでは。」という意見が出され、次回以降に検討していくこととなりました。



また、「チームバリアフリー」という名前については、高齢者が生活していくうえでのバリアー（障害）をなくすという意味はもちろんですが、世代間の交流を促すために世代間のバリアーもなくしていこうという意味を込めてつけられています。

キーワード	内容
地域コミュニティ	・高齢者が暮らしやすい地域づくりには、地域での見守り、互いにあいさつしあうような関係、多様な世代が参加できるイベントなど、地域のつながりが何よりも大切である
利便性	・坂が多い生駒市では移動のしやすさが重要。そういったことが、高齢者が楽しめる環境づくり（⇒娯楽）につながれば良い
皆が集まれる場所づくり	・（地域コミュニティにも関連するが）高齢者が孤立しないために、気軽に集まれ、多様な世代と交流できる場所づくりも必要である
生駒ブランド（らしさ）をいかした暮らし	・生駒市の高齢者だからこそできる、また生駒市の環境だからこそできる「高齢者にとっての暮らしとは何か」を考えていきたい

《健康・スポーツ・自然（仮）》

メンバー：塩瀬さん、西さん、長谷川さん、山本さん（4人）

スポーツは健康増進に役立つと同時に、世代を超えた交流ができるコミュニケーションのツールだという話になりました。あいさつをする機会も増え、人と人の顔の見えるつながりが、地域の防犯の効果も生みます。

生駒市の豊かな自然を活かし、ハイキングなどの運動や、棚田での取り組みができ、地産地消などにも結びつくなど、アイデアを出し合いました。



キーワード	内容
坂道と健康	・スポーツで健康を維持することで、市内の坂を登ることができる。しかし80歳にもなると・・・？
コミュニケーション	・スポーツを通して、若い世代との交流ができる。顔の見える関係 ・ノルディックウォークで市内を毎朝歩き回る。あいさつ ・気軽に集えるカフェなどあってもいい
ハイキング・自然	・生駒山など、豊かな自然の中をハイキング。昆虫とのいい距離感
夜空	・空気が澄んでいるため夜空がきれい
ガーデニング(景観)	・街角を飾る花。気持ちよく外出できる
地産地消	・家庭菜園、棚田など、身近なところに食材がある生活
安全・安心	・スポーツを通しての地域のつながりが、防犯にもなる
便利さ	・歩いていける範囲で買い物ができれば

《幅広く考え中のグループ》

メンバー：秋山さん、杉原さん（2人）

生駒のまちづくりについて幅広く議論をする中からテーマを絞っていききたいというグループです。メンバーは2人でしたが、その分、深くコミュニケーションができました。

自然の環境を「森」「生物」「明かり」の3つのキーワードで捉えて暮らしのイメージと結びつけたり、自然を背景として様々な暮らしや活動が開示されているイメージが出されました。また、移動の便利さや、安全で安心できる暮らしの他、市民がみんなで支え合い、またまちづくりに取り組んでいる姿そのものを生駒のブランドとしてアピールしていく考えも出されました。



キーワード	内容
感じる自然	・森（すがすがしい朝、心が癒される）、生物（虫の音や小鳥のさえずりが聞こえる）、明かり（星空が見える）
背景としての自然	・自然が日常生活の背景に溶け込んでいる ・自然の中で高齢者や障がい者が働いている
移動の利便性	・バスやレンタサイクルで便利に移動できる ・マップなどでわかりやすく表示されている
安全で安心な交通	・安心して歩ける道、駐車場があって便利なお店
みんなとともに	・みんながまちづくりをがんばっているイメージ ・みんなで支え合って暮らしている（高齢者など）
暮らしやすさのイメージづくり	・安全で暮らしやすいイメージをアピール ・まちの出入り口を目立たせてイメージづける

●講評

大阪大学大学院准教授 松村暢彦氏

学生に研究指導をする際、「好奇心」と「使命感」が重要」と話しています。ただ実際は、好奇心の方が重要な要素として占めるのではないかと思います。「面白い」と思えることが大きな原動力を生み出すのです。

昨日は子ども達の為に、近所の父親達と竹を切り出す作業をしてきました。子どもの為なのですが、一緒に楽しくできる仲間ができ、より楽しくなっています。

みなさんも好奇心を持って、面白がって取り組んで貰えるようになれば良いと思います。



近畿大学教授 久隆浩氏

最近Jリーグもプロ野球も、地域と密着して応援してくれるサポーターを増やしています。ある地域に特化するということは、範囲が狭まるようであり、根が深くなるので応援する力も大きくなるのです。ワークショップでもいろいろな話が出てくるとは思いますが、生駒らしさを強調するためには、そぎ落とすことも重要であることを覚えておいてもらいたいと思います。

●ふりかえりシートから

「ふりかえりシート」の中からのご意見をいくつかご紹介します。

- ・話を掘り下げて具体的な意見交換ができた
- ・本音で語れた時間があったのが有意義だった
- ・「好奇心」を持って、楽しくやっていきたい
- ・参加者の役割をはっきりさせてほしい
- ・ワークショップの内容についての不安は、生駒への強い思いの裏返しだと思った

●事務局

生駒市都市整備部都市計画課

TEL : 0743-74-1111 (内線 564) FAX : 0743-74-9100 mail : ikotoshi@city.ikoma.lg.jp